

# としょぶらり

米子高专図書館情報センター報

ISSN 1344-5634

第 83 号

平成19年7月9日発行  
米子工業高等専門学校  
図書館情報センター

## 目 次

読書の楽しみ (校長) ……	2
新任教員からの推薦図書 …	3
学生図書委員のページ	
学生図書委員一覧 ……	5
ブックハンティング ……	5
文化セミナー ……	6
新着図書 ……	6
図書館統計 ……	7
新着図書 ……	7
読書エッセイコンクール	
応募要項 ……	8



ブックハンティングによる新着図書 撮影：学術情報係長 濱田泰之

## 市民シネマ「梨の花は春の雪」原作本を装丁！

一般科目 田中 晋

この度、発行された市民シネマ「梨の花は春の雪」の原作本の装丁と表紙イラスト作成を担当しました。

市民シネマとは、鳥取県西部の市民が、原作・脚本・制作といった映画作りの核になる部分にまで参画した、非常に珍しい映画づくりです。自分も、本校A科の西川先生、上田技官、A科学生さんらとともに、劇中に登場する架空の小道具・大道具の製作を担当しました。原作本の表紙作成の依頼は、その技術を活かして写真をCG加工して欲しいというものでしたが、諸事情で写真が使用できないこととなり、結局、イラストまで描くことになってしまいました。時間がなく第一稿を二晩で作成したものですので、正直、あまりじっくり見られると困ります…(が中身はじっくり読んでください)。

原作は、米子市在住の松本薫さんによるものです。夫の父親が倒れたために、仕事を辞めて見知らぬ土地米子へやってきた響子。慣れない環境の中、地元の人々とふれあい、義父の後を継いで、梨づくりをはじめることになるのだが…。物語は映画とは一部異なるもので、映像では伝えきれなかった細かな心理描写がなされています。是非とも、映画共々ご覧いただき、市民シネマへ読者として、鑑賞者として参加してください！



発行 市民シネマ「梨の花は春の雪」制作実行委員会  
定価1,600円(税込) ISBN4-901951-26-2



## 校長 水島 和夫

なぜ読書をするのか？ 読んで楽しいから、それが私の答えである。

仕事や勉強の上で本を読む場合もあるが、読んでいて楽しければ、それは「読書」であるけれども、仕事で必要に迫られて行う「文献調べ」などは、通常は楽しいものではない。読書の基本は、「楽しい」ところにあると思う。そして、読んだ本から、何か人生で得るところがあったり、後になって思いがけなく役立つことがあったりすれば、より楽しさが増すというものだ。（その時にならないと分からないことだが。）

このような次第で、これまで、とにかく興味を覚えた本を楽しく濫読してきたわけだが、学生諸君と同じ年頃に「読書」し、印象に残って、その後の人生に予期しなかった何かを加えてくれた本を2冊ほどあげてみよう。

1冊は、16歳の頃父の書棚で見つけ、なぜかこっそり読んだ『エジプト人』という題名の本。吉村作治先生の考古学本ではなく、ミカ・ワルタリというフィンランド人作家による戦後まもなくの世界的名ベストセラー小説で、紀元前14世紀、イクナトン王による宗教改革前後、動乱のエジプトを舞台に、自身の出生や王家の秘密を背負う医師の生涯を、実に生き生きと、ロマンたっぷりに描いている。夢中で読み進む中で、時代や世界を越えて、青春とは何か、幸福とは何かについて考えさせられ、後に年をとってから再読してみても感動を覚えた。また、時代背景がよく研究されており、ツタンカーメン王も登場するし、バビロニアやクレタ島の迷宮なども舞台になっている。一人称の語り口で展開する鮮やかな古代世界にふれて、エジプト、ギリシャなど古代文明への興味がわき上がることとなった。今でも吉村先生のエジプト発掘TV番組など親近感を持って楽しんでいる。

2冊目は、19歳の時読んだT.E.ロレンスの『知恵の七柱』。第1次大戦の中東（西アジア）戦線で活躍した英雄、映画『アラビアのロレンス』主人公の著書である。映画を見て興味がわいたことから図書館で見つけた本で、考古学徒として中東各地で発掘にたずさわったことから、「土地勘」を買われて軍人としてアラビアに派遣された著者が、現地での経験や風土・民族性を記したものである。映画との関連で興味深く読んだわけだが、20世紀初めの、遠く離れた中東の風土・民族など当時の私には無関係なものであった。ところが、その後20余年経って、思いがけなく勤務で中東の人々と接する機会、さらに、その地に足を踏み入れ、スエズ運河を往復したりする機会を得、七柱の知恵は無関係ではなくなった。また、ロレンスが、アラブ人は組織的活動には弱い個人戦でゲリラ的活動をすれば強力だと書いているが、近年のイラク情勢の推移などを見ていると、今でもこの本の指摘は色あせていないと思える。

というわけで、学生諸君、楽しい読書、将来君達の人生に予期せぬ何かをプラスすることになるかもしれない読書をおおいに楽しもう。



## 思い出の本

機械工学科 榎田 岳

今回、「としよぶらり」原稿の依頼を受け、何の本を紹介しようかと悩んだのですが、私が高専の学生だった頃に出会った本を紹介したいと思います。

私が本校の機械工学科の学生るとき（高専の3年生のときだったと思いますから、今から17年くらい前でしょうか）に読んだ本で、本田技研創業者の本田宗一郎氏の『私の手が語る』（グラフ社、平成15年）を紹介します。確か、大原先生が英語の授業中に紹介された本だと記憶しています。当時の英語の授業内容はほとんど覚えていないのに、この本を紹介してもらったことは覚えているのですから、私はあまり真面目な学生ではなかったのでしょう。どのような授業の流れでこの本の話になったかは、全く覚えていないのですけれど、授業でこの本を紹介されて、それからしばらくして書店で見かけたときに購入した覚えがあります。

当時、本田技研はF1のトップチーム「マクラーレン」にエンジンを供給しており、「マクラーレン・ホンダ」として毎年のようにコンストラクターズチャンピオンとドライバーズチャンピオンを獲得していた時代で、F1への興味も本を手にとった理由の一因だったのかもしれませんが。

内容は本田宗一郎氏が生まれてから本を執筆された当時までの様々な事柄を綴ったエッセイ集で、ひとつひとつのエッセイは2～3ページと短めで読みやすいものが収録されています。その中に書かれている事柄は、飛行機を見物に行くためにペダルに足が届かない自転車に乗って出かけたという少年時代の思い出であったり、本田技研を立ち上げた当時にスーパーカブの量産工場を三重県鈴鹿市に決定したときのエピソードだったり様々で、高専で日頃からよく耳にする「ものづくり」という言葉に込められている意味や想いも感じられるのではないかと思います。

今回、みなさんに紹介するにあたり、もう一度同じ本を購入して久しぶりに読み直してみました（昔買った本は卒業するときに後輩にあげてしまったので…）。昔読んだときも今読み直したときもやっぱり面白く、そして考えさせられる本だったのですけれども、高専生の頃とはまた違った印象を受けました。

本田宗一郎氏の体験や思想そして生き方を読むことで、高専で学ぶことの意味や技術者としてのスタンスを考える良い機会になれば幸いです。

なお、この本は昔買ったときは講談社から文庫本で出版されていましたが、文庫版は現在絶版になっており、ハードカバーの本として復刊されています。ちなみに、本校図書館の蔵書検索をしたところ、蔵書の中に文庫版があるとのことで、興味を持たれた方は一度ご覧になって下さい。



## 心が元気になる本

電気情報工学科 奥雲 正樹

今回、学生の皆さんに勧める本の紹介を依頼され正直何を推薦しようかととても悩んでしまいました。

私が中学、高校生の頃を思い起こすと「ブルーバックス」ばかり読んでいたような気がします。私が読んでいた分野は主に物理学や工学でしたが、この本は専門的な部分はほとんど無く、とても分かりやすく書いてあり夢中になって読んだ覚えがあります。今思えば、理学や工学の分野に進んだのもこの本の影響がとても大きかったように思えます。

その後大学に進学したのですが、大学時代は長期の休みを利用してバイクに荷物を満載し、日本各所を走り回っていました。夜、テントの傍らで本を読むのが旅の日課になっていましたが、今回は旅の途中で読んだ本の中で特に心に残ったものを紹介したいと思います。

### ・梨木香歩『西の魔女が死んだ』

この本を読んだのはたぶん5回目の北海道一周のとき、クッチャロ湖湖畔キャンプ場で読んだ本です。あらすじを簡単に説明すると、主人公の女の子（舞）は中学に入ったとたん登校拒否を起こしてしまいます。そこで田舎に住む祖母（「西の魔女」と舞は呼んでいる）の家でしばらくの間、祖母と2人きりで生活することになります。その生活のなかで、祖母の「自分らしい生き方を大切に」という生き方、そしてそんな生き方を続けている祖母と舞をやさしく包んでくれる花や木々などの自然環境、こういったことを吸収して舞はすばらしい成長を遂げていきます。この本は僕が読んだ中で一番の癒しの効果を持っています。中でも舞と祖母を取り巻く自然の描写がすばらしく、頭の中で鮮明にその場面を思い描くことができます。

悲しいことがあった時、楽しいことがあった時に関らずに心が元気になる、そんな本です。

### ・湯本香樹美『夏の庭』

これは5人での九州一週旅行中、宮崎の日南海岸でキャンプをした時に読んだと思います。あらすじを簡単に書くと、小学6年生の少年3人組は仲間の祖母の死をきっかけに、「人の死」というものに興味をもちます。そこで「人の死ぬ瞬間」を見るために、近所に一人で住むおじいさんを観察します。おじいさんと少年達との仲は最初はギクシャクしたものでしたが、家事を手伝ったりいろいろな話を聞くうちおじいさんとの間に友情が築かれていきます。あらすじはこんな感じです、かなり昔に読んだ本だったので詳しいことは余り覚えていませんが、「生きること」と「死ぬこと」の両方をほのぼのとした、それでいて少し悲しく考えさせられる本でした。

以上、心に残った感動する本を挙げてみました。私の勝手な思い込みかもしれませんが理工学系の学生はどうしても技術書、専門書ばかりを読んでしまう感じがします。実際私もそうでした。確かに知識の幅を広げられ

# 新任教員からの推薦図書

る本を読むのは大変重要なことだと思います。だからこそ、そんな中で疲れ切った心を癒してくれる本を紹介させていただきます。



## 2冊の本

電子制御工学科 井上 学

基本的に工学専門書ばかりを読むため、この場で紹介するにふさわしい本というのは非常に少ないです。その中から、大学編入学時に勧められ、非常に役に立った、考えさせられた本である『新・技術者になるということ～これからの社会と技術者～』（飯野弘之著、雄松堂出版）と、『大学生の学習テクニック』（森靖雄著、大月書店）を紹介します。

『新・技術者になるということ～これからの社会と技術者～』は、「大学の工学部を出れば、技術者になれるか？」という問いに対し、「技術者とは、自分の専門分野で課題を依頼者から委託されたら自分の持っている技術の知識、経験を基に最適な方策を提案、提供できる専門職」、「その能力が無ければ、例え大学の工学部を卒業しても技術者とは言えません」という回答から始まっています。

ここで、皆さんには、「大学の工学部」を「高専」と置き換えてもらえればよいと思います。大学卒業、高専卒業、どちらも学位を取得できますが、あくまでそれは「大学・高専を卒業した」という証でしかありません。その道のプロである「一流の〇〇者・家（〇〇の中は技術、教育、芸術、音楽など）である」という証にはならず、またそれは大学・高専から取得できるものではありません。プロや一流という証は、自らが社会に貢献し、その評価として社会から与えられるものです。この本では、そうした技術者としてのあり方が、個人の問題から身近な社会問題、そして国際問題や地球環境問題までの多様かつ広範な問題に対し、豊富なデータと共にわかりやすく書かれています。普段は技術と関わりのないと思いきな事項にも、考えなければならぬことや活躍できる場があるということに、気づくことができます。

この本を読んで、自分なりの目標とする技術者像を考えてみてはどうでしょうか？具体的な目標があると、日頃の一つ一つの物事に対する捉え方や取り組み方が変わってくると思います。

もう1冊の『大学生の学習テクニック』という本ですが、こちらも「大学生」を「高専生」と置き換えても支障はありません。レポートの書き方やノートの取り方といった学習テクニックから、会議・討論の方法や発表の技法等のクラブ・同好会活動でも利用できるテクニックが紹介されています。私の場合、この本を読んでから、ノートの扱い方がガラリと変わりました。また大学時代に行った会議で紹介されている方法を実践してみたところ、普段よりも活発な議論を行うことができるようにな

りました。学生生活の学習面、課外活動運営等で何かに躓くようなことがあったとき、読んでみるとヒントや答えが得られるかもしれません。

どちらも途中から読むことができますし、また、気になる項目だけ読んでみるといったこともできます。気軽に手にとってみてはどうでしょうか？



## 夢

物質工学科 梶間 由幸

数ある化学の研究分野で、何故私が有機化学を選んだのか。よく有機化学は「臭い、汚い、キツイ」と三拍子そろった調子で言われたりもします（現実はどうでしょうか…?）。

学生時代の私は製薬会社で研究したいと思っており、また有機化学の授業で先生が書かれる有機化合物の構造の複雑さに興味をもったものです。天然物合成の門を叩きそこで、抗腫瘍活性天然物の合成に従事しました。当時米国スタンフォード大との合成競争が続いており、研究室はピリピリした雰囲気がありました。先生は朝6時に来て夜12時くらいに帰る。帰る間際、次の日までにやっておくことを言って帰る。それを終えるには徹夜。

先生は「体には気をつけて無理はするなよ」と言って帰っていく。1年に4日程しか休みがなかったことを記憶しています。タフでなくてはもたないところでしたが良い研究仲間恵まれ、その時の思い出は今の私には財産です。

その中の1人、アメリカ人の博士研究員は決して実験がうまい先輩ではありませんでしたが、常にポジティブで夢をもった人でした。彼は帰国後事業を立ち上げ、大成功しカリフォルニアの小高い丘の上にプールとテニスコートを備えた家に住んでいます。夢を持ち、彼のポジティブすぎる性格が招いた成功だと思います。

大きな夢をもち、その夢を具体化するために越えられそうなハードルを設定し、クリアできれば徐々に高さを上げていく。研究を通じて学びました。

学生のみなさんは米子高専を卒業すると研究者、技術者として社会で活躍されると思います。その際、うまく研究開発が進めばいいですが、中々現実には厳しいものです。挫けそうになったり、挫折したりするでしょう。その時、自分自身を奮い立たせるものは何でしょうか。家族、友人、恋人…様々なものがみなさんを救ってくれると思います。

『化学者たちの感動の瞬間—興奮に満ちた51の発見物語』は「ものづくりの」原点に返って研究・開発活動の面白さを第一線で活躍する研究者が分かりやすく解説しています。

学生のみなさんがもつ「ものづくり」に対する志を見直し、未知への挑戦に心躍らせる一役になればと考えます。

本年度より「学生としょぶらり班」が担当するページが新設されました。是非ご覧ください。

平成19年度学生図書委員と役割分担が決まりました。今年度より四つの班にわけてそれぞれ活動をしていきます。よろしくお願いします。

## 平成19年度学生図書委員一覧

	M科	E科	D科	C科	A科
1年	赤田 文彦	石本 隆馬	中野 芳勇	湯汲 航平	藪内 俊介
2年	藤本澁太郎	川上 太知	小松 紀由	藤沼 輝	出口美由紀
3年	橋浦 佑基	戸田隆太郎	米垣 賢治	野口 太郎	山本 順也
4年	松田 憂生	△関 さゆり	○尾田 崇	笹間美由希	北野 竜太
5年	米田 祐二	高橋 裕也	野田 祥子	藤田 誠実	▲田村 謙人

○印：委員長    △印：副委員長    ▲印：副委員長兼書記

## 委員会内担当

高専祭	としょぶらり	文化セミナー	書架整理
○5 D野田	○5 E高橋	5 M米田	○5 C藤田
4 E関	3 A山本	○4 D尾田	5 A田村
3 M橋浦	2 E川上	3 D米垣	4 M松田
2 C藤沼	2 D小松	3 C野口	4 C笹間
2 A出口	1 M赤田	3 E戸田	4 A北野
1 D中野	1 E石本	2 M藤本	1 A藪内
		1 C湯汲	

○印：責任者

## 図書委員長抱負 4 D 尾田 崇

早いもので私が図書委員を始めて3年目となりました。図書委員というのは一度入ったらなかなか辞められないものがあり、付き合いもあり続けてきたわけですが、まさか自分が委員長になるとは思ってもありませんでした。

なにぶん不慣れなもので、今のところ前委員長や副委員長に頼りっきりになっておりますが、先輩方に恥じない委員会運営に努めさせていただきます。

## 各班責任者の抱負

### 文化セミナー班班長 4 D 尾田 崇

ご存知ではない方が多いでしょうが、高専のイベントのひとつに文化セミナーというものがあります。

これは先生方による講義なのですが、ただの講義ではなく、身近なもの、話題性のあるもの、マニアにはたまらないものをテーマに取り上げたものが多く、気軽な気持ちで聞くことが出来ます。

今年も興味深いテーマが多いので、是非公会堂までおこしてください。

詳しくは8ページかポスター等をご覧ください。

## としょぶらり班班長 3 A 山本 順也 (代理)

としょぶらり班では、「としょぶらり」に関する仕事をしています。「としょぶらり」に委員会の活動報告やブックハンティングで購入した本の紹介などを載せるので、そのための原稿を書きます。図書館情報センターの発行する「としょぶらり」では、毎回さまざまな情報が掲載されていますので、最後のページまで目を通してもらえたらと思います。今年も積極的に活動に参加していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

## 高専祭班班長 5 D 野田 祥子

図書委員会高専祭班は、その名の通り、主に高専祭で活動します。

昨年は古書市を開催し、先生方から不要となった本を譲り受け、安価で販売を行いました。その時の本がいくらか残っているため、今年も古書市を開くことなるかもしれませんが、ですがその場合でも、去年は行わなかった新しい要素を盛り込んでいきたいと考えています。

皆さん、是非高専祭では図書委員会の企画に足を運んで下さい。

## 書架整理班班長 5 C 藤田 誠実

私たち書架整理班の活動内容は、退職された先生方の研究室に残った本などのデータを整理したり、書庫に入っている書籍のリストを作成したりしています。

抱負として、今年最後の図書委員なので最大限の努力を尽くして、みなさんによりよい環境で図書館を利用できるようにしていきたいです。



コンピュータで本を検索しています。

## ブックハンティング実施

5月16日(水) 午後5～6時にかけて、本の学校にてブックハンティングを行いました。参加者は21名で一人当たり6000円程度で本を選びました。現在図書館閲覧室の入口に推薦文とともに展示してあります。是非ご利用ください。参加した人の感想を載せました。



本を探す図書委員

## 2 E 川上 太知

ブックハンティングは僕にとっては初めてのことで、する前はとても楽しみにしていました。参加したときに驚いたのは本の購入量でした。

みんなに欲しい本は何か聞いてみましたが、それでも足りないほどでした。選んでみて、この本を見て喜んでもらえるだろうかという考えで慎重に選んでいました。中には、頼まれていた本が抜けていたり大変な目にも遭いました。でも、そんな苦勞の甲斐あって、いい本が購入出来たと思います。もしも次またブックハンティングをする機会があったら別のジャンルもあさってみたいと思います。

## 1 M 赤田 文彦

ブックハンティングというものに参加することは初めてだったので当日は少し戸惑いました。名前の通りたくさんの方が買って良かったです。中学校の時にはそういう行事はなかったので驚きました。中でも一番驚いたことは、一人六千円分の本を買うことが出来るということでした。その時買いたい本がたくさんあったのでとても迷いました。図書委員の人たち皆が買った本を見てみると雑学から小説まで幅広い種類の本がありました。六千円分の本を買うには時間も結構かかるだろうと思っていたけど、以外に早く買い終えることが出来ました。

ブックハンティングという行事は、自分の思っていたものとは全く違うもので驚きました。またブックハンティングに参加して良い本を見つけようと思います。

## 1 E 石本 隆馬

今回のブックハンティング、僕は初めてブックハンティングだったので、正直言うと緊張していた時間の方が多かったと思います。けれど、実際は緊張ではなく、むしろ楽しさを感じました。人数が少し足りませんでしたが、先輩たちから同学年の学生まで楽しそうに本を探していて、僕もその中に混じって本を探し、たくさんの中から一つずつ選んだりしました。

時々来ている店も、いつもとは違う感じがし、目に映る本も新鮮味がしたのを感じました。選んだ本は哲学や

小説などでしたが、この本達が一回でも多く人の手の上で読まれることを祈っています。

## 平成19年度第1回文化セミナー開催

さる5月26日(土)公会堂2階集会所において午後2時より、第1回文化セミナーが開催されました。講師は一般科目(地理担当)加藤博和先生で、「鳥取県におけるバス交通の現状と課題」という演題で講演していただきました。来て頂いた一般の方々も身近な話題に興味深く聞き入っておられました。加藤先生有り難う御座いました。



講演中の加藤先生

なお録画したDVDは、中海テレビ放送(14チャンネル)で6月11、12日に放送されました。

## 新着図書を紹介

### 学生によるブックハンティングから

- |                           |                             |
|---------------------------|-----------------------------|
| 5 E 高橋裕也                  |                             |
| 一瞬の風になれ(1巻)               | 佐藤多佳子 講談社                   |
| 5 D 野田祥子                  |                             |
| ゲーム開発のための数学・物理学入門         | Wendy Stahler ソフトバンクパブリッシング |
| 5 C 藤田誠実                  |                             |
| 好きになる生物学                  | 吉田邦久 講談社                    |
| 絶対わかる無機化学                 | 齋藤勝裕 講談社                    |
| 5 A 田村謙人                  |                             |
| ロッキー ザ ファイナル シルバスター・スタローン | メディアファクトリー                  |
| 富の未来(上・下)                 | アルビン・トフラー、ハイジ・トフラー 講談社      |
| 4 E 關 さゆり                 |                             |
| プログラマの完全常識                | 矢沢久雄 技術評論社                  |
| 書けないと恥ずかしい漢字1000          | 岡田話史 河出書房新社                 |
| 4 D 尾田 崇                  |                             |
| オペラガイド126選                | 山田治生 成美堂出版                  |
| 4 C 笹間美由希                 |                             |
| 三月は深き紅の淵を                 | 恩田 陸 講談社                    |
| 4 A 北野竜太                  |                             |
| レヴオリューション No.3            | 金城一紀 角川書店                   |
| 3 C 野口太郎                  |                             |
| 悪食大全                      | 〇ミ[著]高遠弘美[訳] 作品社            |
| 3 A 山本順也                  |                             |
| 1 リットルの涙                  | 木藤亜矢 幻冬舎                    |
| 病気にならない生き方                | 新谷弘実 サンマーク出版                |

# 図書館統計

## 1. 平成18年度利用状況

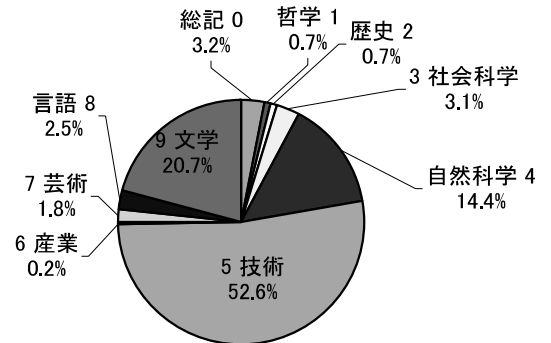
(1) 開館日数241日（時間内209日・時間外197日）

(2) 入館者数・貸出者数・貸出冊数

区 分	学 生	職 員	校外者	合 計
学生・教職員数	1,064人	131人	18人	1,213人
入館者数	44,366人		134人	44,500人
図書貸出者数	4,915人	263人	96人	5,274人
図書貸出冊数	9,332冊	577冊	262冊	10,171冊

## 2. NDC分類別貸出冊数・貸出率

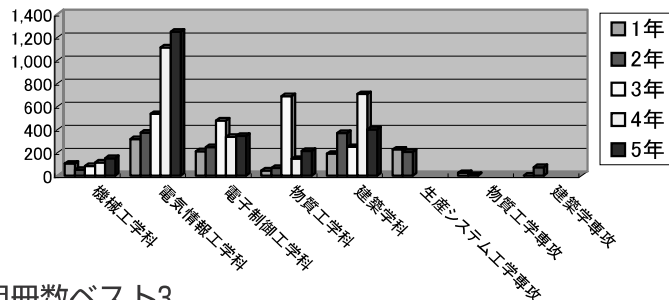
分 類	貸出冊数	順位	分 類	貸出率(%)
0 総記	323	1位	5 技術	52.6%
1 哲学	70	2位	9 文学	20.7%
2 歴史	75	3位	4 自然科学	14.4%
3 社会科学	317	4位	0 総記	3.2%
4 自然科学	1,467	5位	3 社会科学	3.1%
5 技術	5,353	6位	8 言語	2.5%
6 産業	25	7位	7 芸術	1.8%
7 芸術	181	8位	2 歴史	0.7%
8 言語	255	9位	1 哲学	0.7%
9 文学	2,105	10位	6 産業	0.3%
合 計	10,171	合 計	合 計	100.0%



## 3. 平成18年度 学生利用状況（学年・学科別貸出冊数）

本科・専攻科

学年	本 科					専 攻 科			合 計
	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科	生産システム工専攻	物質工学専攻	建築学専攻	
1年	105	317	211	45	190	226	25	0	1,119
2年	50	373	247	66	370	205	8	74	1,393
3年	84	536	479	690	250				2,039
4年	115	1,112	336	147	709				2,419
5年	152	1,249	345	214	402				2,362
合計	506	3,587	1,618	1,162	1,921	431	33	74	9,332



## 4. 平成18年度学生利用冊数ベスト3

順位	貸出回数	書 名	著 者	出版社
1位	20	ハリー・ポッターと謎のプリンス	J.K.ローリング作；松岡佑子訳	静山社
2位	16	Missing ;合わせ鏡の物語 (電撃文庫)	甲田学人	メディアワークス
3位	14	リアとトレイズ ;イクストーヴァの一番長い日 (電撃文庫)	時雨沢恵一	メディアワークス

雑誌・専門書を除く

<p>2 M 藤本滉太郎 環境問題はなぜウツガまかり通るのか 武田邦彦 洋泉社 だから、僕は学校へ行く！ 乙武洋匡 講談社</p> <p>2 E 川上太知 アインシュタイン150の言葉 ジェリー・メイヤー&amp;ジョン・P・ホームズ ディスカヴァー・トゥエンティワン</p> <p>2 D 小松紀由 夜は短し歩けよ乙女 森見登美彦 角川書店</p> <p>2 C 藤沼 輝 図書館戦争 有川 浩 メディアワークス</p> <p>2 A 出口美由紀 小さな花が咲いた日 石川結貴 ポプラ社</p>	<p>1 M 赤田文彦 The MANZAI(1巻~3巻) あさのあつこ ジャイブ</p> <p>1 E 石本隆馬 陰日向に咲く 劇団ひとり 幻冬舎 未来の創り方 江原啓之 パルエンタテインメント</p> <p>1 D 中野芳勇 発明マニア 米原万里 毎日新聞社 楽しく上手にお金とつきあう 小林正観 大和書房</p> <p>1 C 湯汲航平 世界がもし、100人の村だったら 池田香代子再話 マガジンハウス</p>
--	--

平成19年度（34回）

# 校内読書・エッセイコンクール応募要項

米子高専の学生であれば「読書感想文の部」「エッセイの部」いずれにも応募できます。

## ☆読書感想文の部

### 推薦図書

アーシュラ・K・ル=グウィン、清水真砂子訳『ゲド戦記』（岩波書店）	恩田 陸	『夜のピクニック』（新潮社）
劇団ひとり 『陰日向に咲く』（幻冬舎）	さくらももこ	『さくらえび』（新潮社）
小川洋子 『博士の愛した数式』（新潮社）	森 絵都	『カラフル』（理論社）
市川拓司 『いま、会いにゆきます』（小学館）	谷崎潤一郎	『陰翳礼讃』（平凡社 他）
池田香代子再話『世界がもし、100人の村だったら』（マガジンハウス）	茂木健一郎	『脳と仮想』（新潮文庫）
森見登美彦 『夜は短し歩けよ乙女』（角川書店）	佐藤多佳子	『一瞬の風になれ』（講談社）
瀬川 晶司 『泣き虫しょったんの奇跡：サラリーマンから将棋のプロへ』（講談社）※		
川端 裕人 『てのひらの中の宇宙』（角川書店）※	エリザベス・レアード、石谷 尚子訳『ほくたちの砦』（評論社）※	

※第53回青少年読書感想文コンクール課題図書

## ☆エッセイの部

以下の項目から一つ選んで、日頃自分が考えたり思ったりしていることを自由な発想で書いてみて下さい。

- 私の旅
- 涙
- 少年犯罪について
- 好きなことば
- 世界の中の日本
- 親友
- ふるさと
- 宇宙
- タイムトラベル
- もし映画監督になれば

読書感想文、エッセイとも上記以外でもかまいません。

**実施期間**：夏休み

**字数**：両部門とも縦書き原稿用紙（400字詰）5枚以内

**締切**：9月3日（月）

**提出先**：各クラス図書委員が集めて担任へ（専攻科生は直接図書館まで）

**審査**：第1次 ～9月7日（金）：クラス担任が部門ごとに3編以内を選定。  
 第2次 ～9月12日（水）：図書館情報センターにて審査。  
 第3次 ～9月19日（水）：図書館情報センター委員会において最優秀・優秀作品を決定。

**審査委員**：図書館情報センター長、副センター長、センター長補、図書館情報センター委員、国語科教員

**表彰**：部門ごとに、最優秀賞1編、優秀賞2編、佳作数編  
 賞状および副賞として図書券：最優秀賞 5000円券、優秀賞 3000円券、佳作 1500円券

**表彰式**：11月中

**作品提示**：優秀作品は『としょぶらり』誌（84号）に掲載

☆ 1～3年のうち、読書感想文の優秀作品は全国学校図書館協議会および毎日新聞社主催『第53回青少年読書感想文コンクール』の地方審査への応募も兼ねています。

## 米子高専文化セミナー

～とっとり県民カレッジ連携講座・(財)米子市教育文化事業団連携講座～

平成19年10月27日（土） 14：00～16：00

■「私たちの暮らしと酵素」（物質工学科 里村武範）

平成19年11月24日（土） 14：00～16：00

■「おもしろ静電気のはなし」（電気情報工学科 松原孝史）

場所／米子市公会堂 2階 集会室 対象／一般 定員／40人 参加料／無料  
 問い合わせ先／米子高専 図書館情報センター（電話 0859-24-5028）、米子市公会堂（電話 0859-22-3236）

主催：米子工業高等専門学校図書館情報センター 共催：財団法人 米子市教育文化事業団

協賛：財団法人 鳥取県産業振興機構